

**注意！！**

運転中にトラブルの解除をするときは、可動部に十分注意して行ってください。

**○ B.タテシーラ部**

現象	対策
■シール仕様のタテシーラの時 タテシール部でフィルム耳端が左右揃わない	手前が多く、奥側が少ない時 フィルム耳端調整ノブを時計方向に回す
	手前が少なく、奥側が多い時 フィルム耳端調整ノブを反時計方向に回す
■溶断仕様のタテシーラの時 スクラップフィルムが上手く切れない	タテシール部にフィルムの余裕が充分あるかチェックし、余裕がない場合、前項「タテシールされるフィルムがホームから出てこない」項を参照
	タテシール部にフィルムの片寄りがないかチェックし、片寄りがあれば、前項「タテシール部でフィルム耳端が左右揃わない」項を参照
	シールローラの仕切り板の高温側にフィルムが入っていないかチェックし、そうならなければ、低温側にフィルムをもってくる
	フィルムスクラップが高温側シールローラに巻き付いていないかチェックし、そうならなければ、正常に戻す
	ホームに異物がないかチェックし、あれば取り除く タテシーラの温度を上げる
■静電シール仕様のタテシーラの時 タテシールが上手くいかない	静電シールの電源が入っているかチェック
	エンピツ状電極の先端が丸くなっていないかチェックし、丸くなっていれば、やすり等で先端を尖らせる
	フィルムが2枚ともホーム側電極とエンピツ状電極の間にあるかチェック → 1枚がホーム内に入っていないか？
	ホーム側電極で片側フィルムがホーム底板(ステンレス板)に乗り上げてシワになっていないかチェック
	ホーム側電極で2枚のフィルムが密着しているかチェック → 片側のフィルムだけがたるんでいると接着が悪くなる
■静電シール仕様のタテシーラの時 タテシールが上手くいかない	ホーム側電極とエンピツ状電極の汚れをチェック やわらかい布などで定期的に清掃する
	静電シールの電圧表示が安定しているかチェック
	フィルム幅が変更されていないかチェック
非常停止した(即時停止)時は、右記の対策項目をチェックし、運転を再開して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■プリンタ・ミシン目装置装着機 プリンタの印字やミシン目のカットが、フィルムに乗った位置で停止していないかチェック</li> <li>■その部分で包装した製品を調べ、包装不良になっていければ排除する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>■プリンタ・ミシン目装置装着機 プリンタの印字やミシン目もれていないかチェック</li> <li>■その部分で包装した製品を調べ、包装不良になっていければ排除する</li> </ul>
■エアシリンダーが作動しない	エア圧力が0.5MPa前後供給されているかチェック
異音の発生	全ての駆動回転周り及び軸受けのチェック ■改善がない場合は弊社までご連絡願います
異常な振動	全ての駆動回転周り及び軸受けのチェック ■改善がない場合は弊社までご連絡願います
包装機が動かない	各異常検出が作動していないかチェック ■改善がない場合は弊社までご連絡願います

現象	対策
<b>溶断・シール仕様仕様のタテシーラ</b>	
タテシール部でフィルムが溶ける	タテシーラの設定温度を下げる
ホーム底板部でのフィルムのやけど	タテシーラの設定温度を下げる
タテシールされるフィルムがホームから出てこない	調整ローラを供給コンベヤ側に少し移動させ、ホームの天板、側板部にフィルム全体を当て、張りをもたせる
	■ピンチローラが組み込まれている機種では、ピンチローラをホームの底板に対して、フィルムを引っ張るように少し角度をつけてみる。 角度がきつ過ぎると、ホーム入口部で製品が詰まる時があるので注意
	上側送りコンベヤの高さを少し高くしてみる (圧迫を緩める)
	ホームとフィルムが一致しているかチェック
タテシールされるフィルムがホームから出すぎる	調整ローラをヨコシラ側に少し移動させ、ホームの天板、側板部にフィルム全体を当て、張りをもたせる
	■ピンチローラが組み込まれている機種では、ピンチローラをホームの底板に対して平行にしてみる
	上側送りコンベヤの高さを少し低くしてみる (圧迫を強める)
	ホームとフィルムが一致しているかチェック